

会山行報告書

通算山行NO	NO・223a	報告者	加藤 秀子
年月日	'02年 2月 9日(土曜日)～	年 2月11日(月曜日)	
山行名		天候	晴れ
山名	野麦部落～乗鞍岳・御岳スキー場～御岳山		
コース 及び タイム	富士IC 14:00⇒精進湖⇒中央高速塩尻IC⇒R19号線(木曾街道)⇒高山・開田高原⇒野麦の部落 20:00		
メンバー	CL:後藤隆徳(54) 堀合喜義(53) 松村哲也(49) 加藤秀子(53)		

第1日目 ※敬称略

富士IC集合。時間より早めに着いた後藤車を出迎えると、『ヤッ。加とー』久し振りの堀合が顔を覗かせた。今期初スキーということで日程を調整しての気合の入れ方が違う。そして、私達とは会山行初めての松村(焼津山の会)が到着。松村とは、先々週天神山スキー場で偶然会い『今度一緒にいこうよ』という経過の所以である。

車に差し込む陽射しはポカポカと暖かく、車窓から望む景色も何となく長閑だ。渋滞にもかかわらず精進湖道路経由で中央高速にスムーズに乗り込む。先週アルピニスト・カレッジで登った茅ヶ岳に、更に雪が積もり山容が大きく見えた。塩尻ICからR19号線の木曾街道に入り、通称《おばさんの店》に立ち寄る。お気に入りの地酒・木曾の濁り酒を一升買い込むと、『今度は何処の山へ登るんだい?』と小振りのリンゴを買い物袋一杯持たせてくれた。

19号線と分かれて木曾川を渡り、高山・開田高原方面の標識に従う。高原に入ると、道は真っ白で凍結していた。明後日登る、御岳山スキー場への上り口《三岳方面へ》の標識を通り越して更に走ると、野麦川を渡って野麦道路にぶつかったT字路。右折して野麦川沿いにつめていくとやっと標高1324m地点の野麦の集落到到着した。

暗闇で周りの状況はあまり判らないが、ポツンぽつんと民家があるだけで後は全て雪の中。人の気配も遮断するくらい戸はピシャッと閉まり灯すら洩れていない。ひっそりと余りにも静かで、集団疎開した廃村に来たようだ。生活臭が感じられたのは、除雪を此処までしてあった道路だけである。その道沿いに、空き家のいい軒下を発見。雨除け、風除けに格好の4人用テント一張り丁度スッポリ納まる最高の場所をテン泊地と決めた。

濁り酒で『乾ぱ〜い!』CLは勿論だが、堀合も松村も酒豪だ。見る間に一升ビンを空にした。テントで呑みながらの語らいはイイ。今日は仕事からみで携わった少年の事を、涙を滲ませ話す堀合にCLが涙した。堀合の温かい思いやり、優しさが伝わってくる。心の交流は信頼関係を育むものだ。山談義にも花が咲き、広角泡飛ばせて喧々囂々。山への情熱はテントの中の山談義から生ずるものなのか。意欲がモーレツに沸き上がる。松村も初参加で又一つ、人の和が広がった。

何か、とてもほのぼ〜のした気分。それを懐にそっと抱えてシュラフにくるまった。

(投稿)

山名	野麦集落より乗鞍岳		報告者	松村 哲也
この山のポイント	初体験で最後のルート。 野麦集落より乗鞍岳。			
2月10日(日) コース及び タイム(曇り)	起床 5:20 野麦の館 7:00 ~ 牧場 8:30/8:35 ~ 2,017m 地点 11:05/11:15 ~ 2,525m 最高到達点 12:45 ~ 野麦の館 16:45			
標高差	△ 上り	1, 200m	体力度	1・2・3・4・⑤・6
	▼ 下り	1, 200m	技術度	1・2・3・④・5・6
			展望度	1・2・3・④・5・6
CL	後藤隆徳	54	今度は完全トレースだ	
	加藤秀子	53	久々の好ルート。大感激。	
	堀合喜義	53	とにかく疲れちゃた	
	松村哲也	49	林間はイイですね	
二 日 目	西吾妻連峰大沢下りの予定が、急遽悪天予想の為乗鞍岳の野麦ルートに変更になった。西吾妻も、野麦からの乗鞍も、私にとってはどちらも未知のルートで選り好みは全くない。			
	<p>昨夜の楽しい一時を過ごした野麦の館サイト場(軒下)を7時に出発する。CLは先にルートファイディングに行くといいつつ、ルートが半明すればドンドン先行していく正に山やさん。加藤も堀合も快調なペースでついていき、前衛峰を越えて牧場の広場で1本。其れまでスキーアイゼンを付けていなかった私は、早朝の固い雪(又は飲み疲れ)で手こずり遅れることしばしば。CL曰くスキーアイゼンは最初から付けておいた方が無難。背景には御岳山が綺麗な姿を見せていた。</p> <p>トラバース気味に下り、鞍部から白樺林を抜けトウヒコマツガの樹林帯の尾根の歩きやすい所を登っていく。樹林の間隔が疎らになった所を過ぎて、傾斜が増してくると森林限界を越える。最高到達地点2,525mの手前はスキーアイゼンすら効かず実に怖い所だ。</p> <p>サア-滑降だ。アイスバーンや重い雪にブツブツ文句をたれる人、最高の雪だと称賛する人、雪だんごになって雪と戯れる人と様々である。白樺林を過ぎて右手の沢に入るが、下り過ぎてしまいスキーをザックに付けツボ足で登り返して林道に出る。林道を崖から落ちないようにボーゲンで慎重に滑って野麦の館までスキーで帰る。やまゆり荘の温泉で汗を流し、テント設営後絶品簡単な豚キムチで一杯飲み、今日一日の余韻に浸る。</p> <p>PS:11日 家に帰ると身体中に豚キムチのニンニク臭が染みついていると怒られる。ともあれ、CL、加藤、堀合さん、大変お世話になりました。</p>			



